



UX デザイン研究室

UX Design Lab.

益岡 了

MASUOKA, Ryo / Professor

和室で奏で彩るスピーカーの提案

Proposal of a speaker that colorfully plays music in Japanese-style rooms

現代の日本には、あらゆる場所に音響機器が設置されている。学校や飲食店、ショッピングモール、駅などの公共空間などや、施設内の部屋ごとにも音響機器が使用されるようになってきている。

しかし日本の住宅で最も特徴的な和室に一般的な音響機器は似合わないと感じる。

和室はこたつを置いて居間として使用したり、布団を敷いて寝室とするなど日常生活の中で様々な使い方ができる。また畳敷きであることからリラックスして過ごす事が可能である。そのような空間にこそ音楽が必要ではないだろうか。

このスピーカーは和室に設置することで視覚的に調和し音楽を楽しむことが出来る。

様々な用途で使うことが出来る和室だからこそ、空間の雰囲気になじむスピーカーを用いることで、日本的な空間へ新たな可能性を提案する。



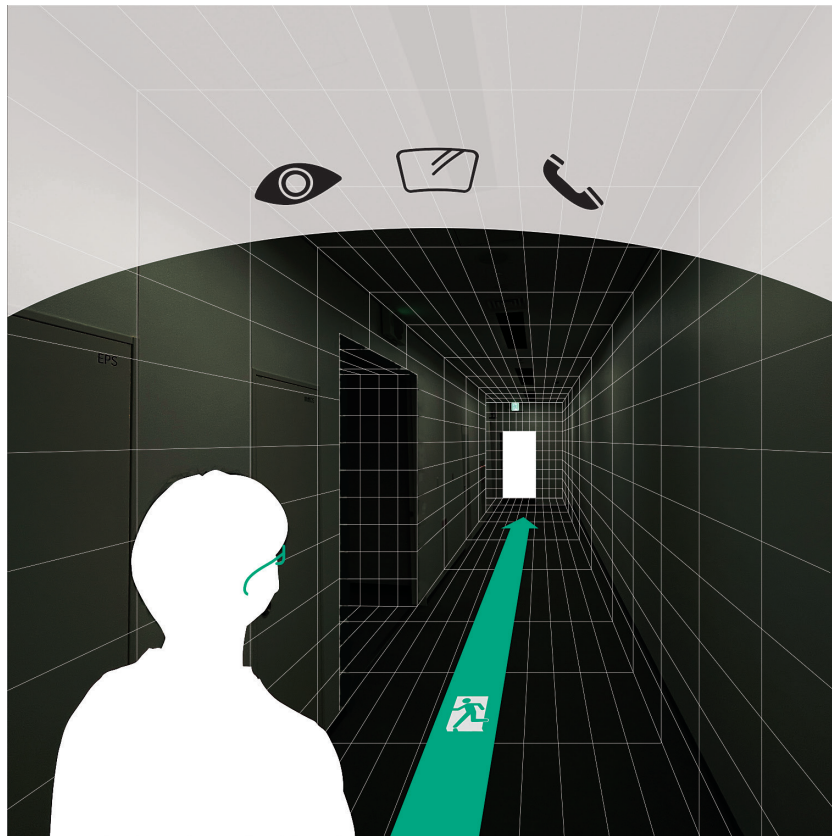
浅岡 隆太

ASAOKA, Ryuta



もしものためのAR機能の提案

Proposal of AR features useful in emergencies



近年登場したARメガネは通話や音楽・動画の再生などのさまざまな機能が搭載されている。しかしARが緊急時に用いられるケースは少ない。今後のAIなどの技術的な発展によって、様々な生活の中の危険を判断し、その対応を分析することも想定できる。このような技術の応用としてユーザーの安全に寄与できる情報デザインのあり方について検討した。

緊急時とは主に防犯・防災・救命のシーンを想定しており、その状況に応じて適切な対応が行えるように、様々な情報をAR空間内に表示することで問題の解決を図った。

危険な状況に陥ったとしても焦らず、冷静に落ち着いて対応できるような視覚表現や聴覚障がいをもつ方でも簡単かつ安全に操作できるようなデザインを行った。

志垣 光一
SHIGAKI, Koichi



不変と変化 静と動の時間

Changes as time passes or stops: Various timelines

都会の中では、ほとんどの物がインターネットを利用して調べることができ、整備された情報があるからこそ実物を見ずとも理解が十分な場合が多い。一方で、自然の中ではそれだけでは不十分な場合が多いだろう。ネットで調べ、迅速に分かることは魅力的だと思う。また、実物をその目で確認する事も魅力的なことでは欠かせないことであると思う。

それぞれどちらが劣っているということなく、これらは「本物を模した変わることのない魅力」と「本物ならではの变化する魅力」であり、人工的な魅力と自然的な魅力だと解釈した。

隣の写真に写る材料は本物なのか偽物なのか。その事実を知る由は実物を見るほかない。そして、この実際に実物を自分の目で見る事が価値のあることではないだろうか。

この魅力と価値を、停止した時間軸「不変」と止まることのない時間軸「変化」の対比をもって、作品の表裏を用いて表現する。



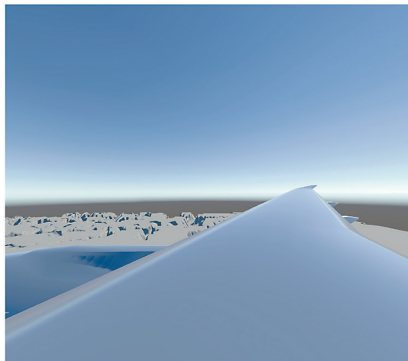
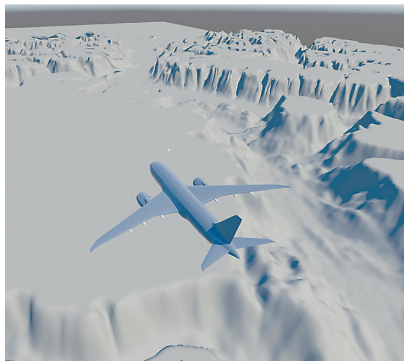
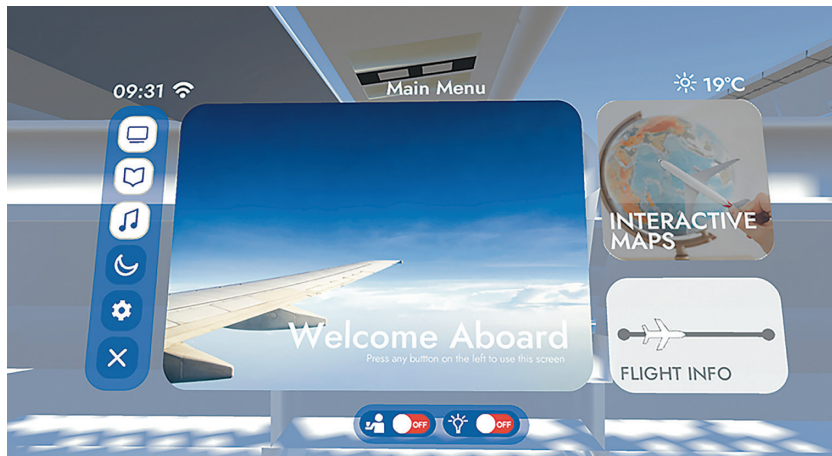
昌山 陽紀

MASAYAMA, Haruki



バーチャルな機内サービスのUXデザイン提案

UX design proposal of virtual in-flight services



商用の航空旅客事業は100年近く存在しており、高価な旅の体験として考えられてきた。だが年月が経つにつれて、空の旅が普及し、より一般的な移動手段となった。しかし空の旅は他の移動手段とは違う体験であり、単なる移動手段として扱われるのは勿体ない。なぜなら、他の交通手段と比較して最も空間的で高速な特性を持つからである。旅客サービスもその個性を活かすべきである。そこで長時間の空路で提供される機内サービスを空の旅をより上質で快適な体験をデザイン提案する。

VRを利用したバーチャル空間内で、ユーザがインタラクティブな体験を行い、乗客は空の旅をより楽しく没入して体験できる。またVRを使うことで、ユーザは機内キャビンという公共的な空間をよりプライベートな空間として認識できる。様々なサービスを個人向けに提供することで、より旅客者の視点に立ったサービスが可能となる。

松田 賢

MATSUDA, Ken



座面測定装置を利用した木製椅子の開発

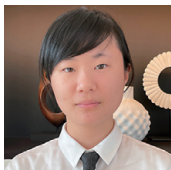
The wooden chair design using adjustable dowel chair

コロナ禍で盛んになったリモートワーク。長時間椅子に座り続けて作業することが多くなったが、果たしてその椅子は自分の身体に合った椅子だろうか。

Jeff Millerの「Chairmaking & Design」にあるAdjustable dowel chair（ここでは座面測定装置とする）を用いて自分の身体に合う木製椅子の開発及びデザインを提案する。

座面測定装置は、側面に通す棒の配置を変えて座ることによって、棒の配置と座り心地をそれぞれ記録することで自分にあった高さや形状を求める事が出来る。

測定を元に形状をデザインし、木の温もりを感じつつ身体に合った木製椅子を製作する。



宮本 麻帆

MIYAMOTO, Asaho

